

このコーナーでは、皆さんからの「お便り」や「写真」をお待ちしています。

【投稿について】

- ◆お便りは、字数 200 文字以内。写真は、1 枚につき 50 文字以内。(文章は、必要に応じて添削する場合があります)
- ◆住所・氏名・年齢・性別・電話番号・ペンネーム(記入がない場合イニシャルで掲載します)を記入の上、市広報係までご投稿ください。
- ◆投稿は、はがき・封書・メールまたは直接広報係へ
- ◆締切は、毎月 10 日
※営利目的や個人、団体を批判・中傷するような内容は掲載できません。
※紙面の都合上、掲載できないこともあります。

【投稿・問い合わせ先】

〒895-2511
伊佐市大口里1888番地
総務課広報係(大口庁舎)
「和みのひろば」係
☎1311
☎1116・1117
✉koho@city.isa.lg.jp



大口で生活を始めてから、夜の空を眺めることが多くなりました。道を歩いているときや洗濯物を干しているとき…。大口の空は吸いこまれそうなほど黒く、そして見渡す限りの星が見えます。特に夏は夜風が涼しく、外で空を眺める事が自然と多くなります。

大口は生活していくには不便なこともあるけれども、その不便さによってこの自然の美しさが保たれているのかもしれないと思いました。(大口 きんぐ 10代)

きんぐさん、伊佐の星空は美しいですね。普段は気づかないけれど、他の街で夜空を見上げたとき、違いがわかります。10代ですでお気づきとは、30代の私は遅すぎてお恥ずかしい。



昭和44年羽月中学校時代の写真。8月の同窓会、みんなな心は青年、見た目は立派な高齢者予備軍。

(羽月 3年1組 50代)

養士の方がいるからこそ、本当の「健康的」な生活が送れるのだと気づいた。(本城 じゃんこ 10代)



編集後記

東日本震災直後、女性職員としては初めて同僚と二人、南三陸町へ派遣されました。一人では行く勇気がなかったかもしれない。その同僚が9月から南三陸町へ2度目の派遣です。

1度目の派遣のとき、民宿の一室で余震に不安を感じながら、毎晩遅くまで語り尽くしました。思うようにお手伝いできない無力感や家族の大切さ、これからの人生感。

それまでも同級生で友人ではありましたが、女性職員は二人だけだった派遣経験は、特別な時間でした。今回、見送ることになり、なんだか後れをとってしまったような、でも決意した友人を誇らしく思うような複雑な心境です。多くは語らなくても一緒に派遣を経験した二人だから、伝わる思いがあります。

南三陸町へ発つ友人へ「頑張っね」ではなく、「自分らしくね」と送りだしました。



人口のうごき

(住民基本台帳から)

H25. 8. 1 現在 (前月比)

総人口	28,872人	(- 14)
男	13,361人	(- 7)
女	15,511人	(- 7)
世帯数	14,174世帯	(+ 1)